



建学発 2019-第 0131 号  
2019 年 11 月 14 日

建築関係会社 人事担当者様

一般社団法人 日本建築学会  
会長 竹 脇 出



博士人材の積極的活用に関するお願い

拝啓 皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本日は、建築界における博士人材の積極的活用に関するお願いをさせていただきたくご連絡させていただきました。

私は、2019年5月30日に第56代日本建築学会会長に就任致しました。その就任に際して取り組むべき重要課題として、「若手人材の教育の推進」を取り上げております。周知の通り我が国は、今後益々少子高齢化に向かうことが予測されております。少子化に向かうに際し、将来の日本建築学会（以下、本会）および建築界を担う若手会員をどのように育成するか、また若手会員の活躍の場を如何に提供するかは待ったなしの重要課題であると言えます。そのためには、若者にとって魅力のある学会、若者が光り輝く学会、自身の成果を積極的に発表しようと思いたくなるような学会にすることが重要と考えています。この課題に対応するために、「若手教育タスクフォース」を立ち上げました。その中でも、博士後期課程進学者を如何に増やすかという課題は重要事項の一つとなっています。

以前から叫ばれていることですが、博士後期課程進学者の確保は、科学技術立国としての我が国にとって第一義的に重要な課題です。その課題を克服するには、課程修了後の受け入れ先の確保が重要な役割を果たします。本会としては、博士後期課程修了者の民間への就職を後押しするような活動を積極的に進めていきたいと考えています。

Society 5.0 時代をトップランナーとして駆け抜けるには、博士後期課程を修了した国際的感覚に優れた独創性豊かな若い人材を確保することが不可欠と思われまます。これからは、技術研究所だけでなく設計業務においても、AI やロボティクスなどの従来の工学・建築学の領域ではカバーできないような領域・分野が重要な役割を果たすものと推測されます。また、ビッグデータ等の活用をはじめとするデータ科学の基礎的習得も政府が主導して全国の大学で盛んに推進されています。

修士課程の学生については、多くの場合、指導教員の研究テーマに関連した内容を指導教員の密接な指導の下に研究を進めることが行われます。それに対して、博士後期課程では、指導教員の指導を受けつつ、独立した発想のもとに独自の研究を進めることが多いと思われまます。そのような過程を経て、博士課程を修了する際には、これまで考えられたことのない独創的な理論・方法や技術が習得できるものと期待されます。また、グループ全体での流れを読みつつ、個人の力で独自の領域を開拓する能力も自然と養成されるものと思われまます。このような能力は、多くの会社で必要と考えられているものですが、それを習得することは時間に追われる業務の中では中々困難であると想像されます。

貴社におかれましては、今後益々競争の激しくなる Society 5.0 時代に柔軟に対応するためにも、積極的に博士課程を修了した学生を採用していただくようお願い申し上げます。

尚、博士人材へのアクセス等につきましては、本会事務局にお問い合わせいただければ、可能な範囲でご協力させていただきたく予定です。

敬 具